令和三年度　大学入学共通テスト概況分析

令和三年度共通テストは第一日程（一月十六・十七日）、第二日程（一月三十・三一日）の二回にわたり実施された。今年度の志願者数は、五三五、二四五人（前年比九六・〇%）と減少した。受験者数とともに、センター試験時代を通じ過去最大の減少率となった。今春は既卒生志願者の減少率が高かったことが特徴であった。

共通テストは、思考力・判断力・表現力等を一層重視した評価ができるよう、作問や出題形式を見直す方向が示されていた。二〇二一年度共通テストの問題を見ていくと、センター試験に比べ、解答マーク数が減少した科目が多かった。また、全科目でグラフ、地図、写真、文章など読み取る資料の分量が増加した。そのほか、授業における学習場面、日常生活の中から課題を発見して解決方法を構想する場面、資料やデータをもとに考察する場面など、学習過程を意識した出題設定が教科・科目を問わず見られた。

英語の「リーディング」「リスニング」、国語の平均点は前年並みであった。一方、数学では、「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅱ・数学B」あわせて約十六点アップとなった。とくに理系生で「数学Ⅱ・数学B」を高得点できた者が多かった。「数学Ⅱ・数学B」では問題分量は増加したものの、丁寧な誘導がなされていたため、数学を深く学んでいる受験生には取り組みやすい問題となっていた。

理科①では、選択者の多い「生物基礎」「化学基礎」の平均点がダウンした。このため、理科で得点できたと感じた文系生は少なかったのではないか。一方で、主に理系生が受験する理科②では得点調整が行われた。最も平均点が高かった「生物」に対し、二十点以上の差がついた「化学」との平均点差を十五点に調整するため、「物理」「化学」で多くの受験生の得点が上昇した。

地歴では受験者の多い地歴B三科目の平均点は六割台前半に固まっており、科目間の差は小さかった。

共通テストの平均点は七科目文系型（九〇〇点満点）が五五五点（前年差プラス八点）、七科目理系型（九〇〇点満点）が五七二点（前年差プラス十九点）となった。七科目型では、平均点が上昇したわりに文系・理系型とも七二〇点（得点率八割）以上の高得点層は増加していない。高得点は取りにくかったのが特徴である。

（河合塾　Kei-Neｔより抜粋）

令和３年度　大学入学共通テスト主要科目平均点
（第１日程）

教科・科目名		平均点 全国	平均点 本校	平均点 差
英語	リーディング	58.8	50.9	-7.9
	リスニング	56.2	52.3	-3.9
数学①	数学ⅠA	57.7	48.7	-9
数学②	数学ⅡB	59.9	42.2	-17.7
国語		117.5	117.7	0.2
理科①	物理基礎	37.6	36.5	-1.1
	科学基礎	24.7	23.5	-1.2
	生物基礎	29.1	28	-1.1
	地学基礎	33.5	31.8	-1.7
理科②	物理	62.4	49.7	-12.7
	化学	57.6	38.4	-19.2
	生物	72.6	70	-2.6
地歴	世界史B	63.5	54.8	-8.7
	日本史B	64.3	65.4	1.1
	地理B	60.1	54.5	-5.6
公民	現代社会	58.4	52.7	-5.7
	倫理	72	82	10
	政治・経済	57	44.7	-12.3
	倫理・政経	69.3	69.6	0.3
総合	７科目文系型	555	483.7	-71.3
	７科目理系型	571	487.9	-83.1

※全国平均は大学入試センター資料より、数値は得点調整後のもの
※７科目文系型：英・数（２）・国・理（１）・地公（２）（900点満点）
※７科目理系型：英・数（２）・国・理（２）・地公（１）（900点満点）

努力は必ず報われる

第二学年主任　今村　義泰

二年生の皆さん、進級おめでとうございます。

二年生は、将来の自己実現に向けて努力を積み重ね、中堅学年として先輩を助け、後輩を指導する立場にあります。学習や部活動、学校行事などに主体的に取り組み、活躍してくれることを楽しみにしています。

一方で、二学年は学校に慣れ、受験までにまだ時間があるという安心感から気が緩んでしまい、「中だるみ」になる学年と言われます。「中だるみ」にならないためには、すでに一年次で確立されている、予習で疑問点を見つけ、授業で理解し、復習で定着させるという学習スタイルを崩すことなく、入試基礎力を固めるように努力しましょう。特に国語、数学、英語の三教科は、苦手な部分が後で足を引っ張らないように二年次のうちに克服しておきましょう。

また、二年次のうちに自分の進路をより具体的にしていかなければなりません。一年次で始めた大学研究をさらに深めて、学部・学科情報を集めると同時に、自分の興味や適性についてもじっくりと考えておく必要があります。二年次の夏休みは是非、オープンキャンパスに足を運んでみてください。志望大学に直接行って、キャンパスの雰囲気を直に体験してみてください。模擬授業や受験相談会に参加してみるのも良いと思います。

さて、皆さんは、中学校時代の成績から「自分はこの程度」と決めつけていませんか。努力もしないで、勝手に自分の限界をつくっていませんか。学びたい学問や将来の夢よりも、「行ける大学」はどこかと考えている人がいますが、その時点で努力を放棄していませんか。「行ける大学」から「行きたい大学」へ意識を変えてください。大学入試に向けて基礎学力はもちろん大切ですが、それ以上に学習を通して困難なことや嫌いなことから逃げない姿勢を身につけてほしいと願います。今後の人生において多くの困難に立ち向かう強さを身につけてください。

そして、今年度は様々なことに挑戦してみてください。新たなことに挑戦する意識や自分を肯定する意識を持ってください。その意識は皆さんの秘めた能力を磨く触媒となるはずです。意識次第で学習に対する姿勢は変わります。意識次第で行事はもっと楽しめます。意識次第で自分の進路をもっと真剣に考えられます。

皆さんが成長する姿を楽しみにしています。「努力は必ず報われる」ことを信じています。

高校生活の始まりにあたって

第一学年主任　岡　伸一郎

一年生の皆さん、入学おめでとうございます。

今年は春の訪れが例年よりかなり早く、三月二五日の新入生オリエンテーションのときに桜の花が早くも咲き始め四月五・六日の合同学習会のときには桜が満開を迎え花びらが舞って桜が丘高校に合格した新入生のみんなを入学前から歓迎し祝福しているかのようでした。

その合同学習会では国語・数学・英語の教科オリエンテーションと進路手帳の使い方について学びました。国・数・英は主要三教科であり、中学校と比べて授業の進度がかなり速くなり単位数も多くなります。予習・授業・復習のサイクルをしっかりと身につけてください。そして、進路手帳を使って自己管理をしっかりと行い、時間を上手に使うように心がけてください。

入学して少し時間が経ちそろそろ学校に慣れてきた頃でしょうか。磐城桜が丘高校という場所に慣れ、クラスの友人や部活動の先輩という人間関係に慣れつつある頃だと思います。授業や学習にはどうでしょう。学校生活に慣れるということは、学校を中心とした生活のリズムを完成し、そのリズムに慣れるということです。勿論、学校生活の主役は「授業」で、その授業を中心として予習や復習による家庭学習も不可欠です。この両方にしっかりと取り組むことが繰り返し学習になり、より理解は進み、さらに定期考査前の学習によって確実に学力は定着することになります。これらの日々の根気強い取り組みの継続が学力定着の基本です。

一年生の皆さんの多くは将来の夢や希望を叶えるため大学進学を目標にしており、そのために磐城桜が丘高校に入学したのだろうと思います。その自分の将来像を実現するために努力してください。ただ、将来像といっても自分の頭の中の「知っている世界」はまだ狭いかもしれません。もっと「知っている世界」を広げることに挑戦してください。学校では大学の模擬授業を受けたり、大学訪問をしたりします。自分でも書籍や資料などで職業や学問についての知見を広げ、さらに興味のある大学のオープンキャンパスに参加するなど自分の世界観を広げることを期待します。

また、夢を実現するためには学力を伸ばすことも必要です。学力を伸ばすには普段の授業が一番の近道です。予習・授業・復習のサイクルを早く確立させ学力を伸ばしてください。数学Ⅰ・Aや生物基礎、現代社会など科目によっては一年生のうちに大学の受験科目の学習が完了するものもあります。受験勉強はすでに始まっているとも言えるのです。根気強くしっかりと基礎基本を身につけ、基礎学力を定着させてください。

また、部活動やボランティア活動にも積極的に参加してほしいと思います。文武両道に取り組むことで心身を鍛えることにもなりますし、友人関係の幅を広げることもできます。将来の進路選択に様々な形で影響することも少なくありません。

最後に、高校は大学や社会に出るための準備の場でもあります。ルールを守りマナーを身に付け教養のある磐城桜が丘高校生として、さらに人間として誇れる自分になってほしいと思います。

しっかり作戦を立てて実践していかないと「あっ！」という間に受験の時期は訪れる

３学年主任　川島　仁

今が４月15日だとすると、2022年「共通テスト」までちょうど９ヶ月。900点満点の５教科７科目型で受験するなら、**１科目の受験勉強を30日で完成しなければいけない** 計算です。意外と時間はないのです。（のんびりはしていられない！）

この残された貴重な勉強時間、効率よく有意義に使いたい。ただ闇雲に勉強すればいい訳ではありません。やはりまず最初は… **受験勉強全体の計画を立てる** こと。

まず、進路手帳でもカレンダーでもよいから、この９ヶ月間全体を眺められるもので、時期を大きく３つに区切って考えよう。おおよそ…

夏休みまで（8月末まで）	基礎力を身につける＝「教科書」の完成
講座制開始まで（10月末まで）	応用力を身につける＝分野別問題演習
入試直前まで（冬休みまで）	実践力を磨く＝過去問・模擬問題演習

このような感じになると思います。そして次に行うことが… **期間ごとに具体的な学習計画を立てる** こと。

これもやはり進路手帳や記入できる１ヶ月カレンダーなどを利用し、**週単位で無理のない計画を積み上げていこう！**

学年集会でも話があったように、始めから大きな目標を掲げてしまうと計画倒れになってしまいます。小さな目標をコツコツと積み上げていくのです。例えば、化学の場合で「計画例」をつくってみると…

5/2～5/8	5/9～5/15	5/16～5/22	5/23～5/29
結晶格子 ノート見直し 問題集Step2	気体 ノート見直し 問題集Step2	液体 ノート見直し 問題集Step2	熱化学 ノート見直し 問題集Step2

…あとは実践あるのみ。始めの「基礎力を身につける期間」では、一般に、**教科書の基本をコツコツと積み重ねていく** ことになります。また、状況により計画は軌道修正していきます。

そして、実はこの計画の実践は、入試問題のつくりと似ています。

多くの入試問題が基本の組合せで構成されてる

一見複雑に見える文章問題も、よく読んでみると、多くのヒントがちりばめられています。そして、それらを正しく見抜き、適切な知識や考え方を動員して融合すると、解けるように作られています。その技量を身につけるのが問題演習なので、何も考えず、ただ、模範解答を見たまま丸写ししていてはダメ！しっかり頭を使いましょう。

さあ、時間がありません！頑張っていこう！